

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 711 号 令和 2 年 8 月

職域部会委員会開催報告

常務理事 福島和彦

去る令和2年7月2日(木)に職域部会委員会が開催されました。通常であれば、最初は三部会合同で行い、次に各部会に分かれて、講習会・研修会の開催計画などを検討しますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、当初から各部会ごとに分かれ、任期满了に伴う部会長の選出、講習会・研修会の開催計画の検討となりました。

まず、産業動物部会について紹介します。部会長には、大谷 研文委員(山口支部)が選任されました。また、今年度の講習会・研修会の開催については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い(当日、東京都での100人を超す感染報告あり)、畜産関係のイベントについては、県畜産共進会をはじめ、5年ごとに開催される全日本ホルスタイン共進会の中止や本会の県学会、地区学会、年次学会も中止になる中、今年度の開催を残念ながら「中止」することとなりました。

次いで、獣医公衆衛生部会ですが、部会長に殿河内 英雄委員(県庁支部)が選任されました。今年度の講習会・研修会については、働き方改革(新しい生活様式の変更等)の一環で、参加人数の制限(参加予定人数の半減、100人以下)、検温等を実施しながら既に保健所では食品営業者への講習会等が開催されているとのことで、実施する方向で検討されました。候補テーマとして、新型コロナウイルス関連等があげられましたが、今後の感染の状況等を勘案しながら決定することとなりました。

最後に、小動物部会について、報告します。部会長には、大黒屋 勉委員(玖珂支部)、副部会長には、白永 伸行委員(徳山支部)が選任されました。講習会・研修会の開催については、開催できるものであれば、1回でも開催するということが決まりました。講師については、県内の先生に依頼し、開催計画を進めることとなりました。

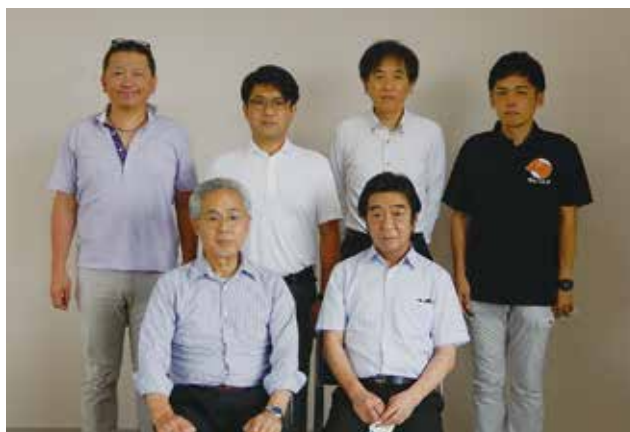
なお、今回の、小動物部会には、環境保健センターから調 恒明所長、香川 裕子保健科学部副部長、川崎 加奈子専門研究員の参加があり「愛玩動物における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)の検査体制と報告制度の整備に関する協力」依頼(会報5ページ参照)があり、今年度も昨年度と同様に愛玩動物サンプルを用いた遺伝子検査、抗体検査を行う旨の説明がありました。なお、昨年度の検査結果では、21件の検査のうち7件(3割強)が陽性であった旨の報告がありました。

特に小動物臨床の会員の先生方にとっては、新型コロナウイルス感染症の拡大も心配ですが、SFTS感染は、直接、命に関わる疾病ですので、今後、事務局としても会員が情報共有できる体制整備に努めたいと思います。

最後になりましたが、それぞれの部会開催に当たり、田中会長理事から新型コロナウイルス感染症感染拡大への懸念、講習会・研修会開催に係る慎重審議のお願い等を旨とする挨拶があったことを記して職域部会委員会の開催報告とします。



小動物部会委員会 (正面右奥：調所長)



前列、左から田中会長、中越副会長
後列左から白永小動物部会副部会長、大黒屋小動物部会長、
殿河内獣医公衆衛生部会長、大谷産業動物部会長

リレー随筆

挑戦しつづけること

昨年より山口県獣医師会に入会しました、山口大学獣医臨床病理学研究室の伊賀瀬雅也と申します。大学の同級生でもある相津絢子先生よりバトンを受け取りましたので、拙い内容になりますが筆を執らせていただきます。私は、山口大学を卒業後に現所属研究室の大学院博士課程へ進みました。水野拓也教授のご指導のもとで4年間どっぷりと研究に浸かり、昨年より現職（助教）を勤めております。現在は、山口大学動物医療センター内科系診療科として診療活動と、犬・猫のガンに対する新規治療法（免疫療法）の研究を行なっております。この場をお借りして、私が現在の進路を選んだ理由と人生訓である「挑戦しつづけること」についてお話いたします。

学部生の時の夢は、地元の愛媛県に戻って動物病院を開業することでした。そして、外科、内科、繁殖等多種多様なことができる獣医師になりたいと夢みておりました。元来私は体を動かす方が得意であり、研究のような頭を使う細かい作業は苦手でした。高校時代には理科科でしたので実験の授業があったのですが、よく抜け出して部活ばかりしていました。しかしながら、研究室に配属され内科診察の補助をしていた際に、当時は報告の少なかった特殊なリンパ腫の犬とその飼い主様に出会うことで、私の人生が大きく変わりました。当時の無知な私は、獣医療がすでに完成されたものと思っており、治療法のない病気や診断できない病気はほとんどないと信じておりましたが、その症例に出会い、病気の苦しみや飼い主様の想い、無力な自分に直面し、「このままではダメだ」と思い立ちました。そして、今の獣医療では治すことのできない病気を解明することを私の使命と考え、大学院へ進学し研究に挑戦することを決めました。誤解を招くので述べておきますが、私は決して成績優秀ではなく、才も持ち得ていないのですが、その時は自分がやらなければという使命感が不思議と湧いてきたのです。

大学院での4年間は、毎日のように実験に明け暮れました。水野教授をはじめ多くの先生にご指導いただき、犬のガンに対する腫瘍溶解性ウイルス療法の研究を行いました。そして卒業時には、末期のガン症例に対する臨床試験を行うまで研究を進めることができました。残念ながら本治療法のみではガンを完治させるには至らず、現在は医学において注目されている免疫チェックポイント分子阻害薬（PD-1抗体）の開発に挑戦しています。今の私の研究のゴールは、「獣医師すべてが使用でき、かつどの場所にお

山口大学支部 伊賀瀬 雅也
（山口大学獣医臨床病理学研究室）



昨年の10月に沖縄で結婚式を挙げました。

いても利用できる治療法」を発見することです。この文章を読まれている獣医師の皆様のお手元に、いち早く有効なガンの治療薬を届けられるよう、人生をかけて今後も研究を続けてまいります。

また、昨年より内科系診療科としての診療にも従事しております。腫瘍性疾患だけでなく、血液疾患、内分泌疾患などに関しても日々勉強をしながら診察を行っております。経験も浅く、ご紹介して下さる先生方にご迷惑をおかけすることが多々あるのですが、山口県の獣医療に少しでも貢献できるよう尽力して参ります。

「夢なきものに成功なし」という吉田松陰の言葉があるように、新しいことに挑戦しなければ見つからないものがあると思います。私の最初の挑戦は、研究の道へ進むことでした。そして現在は、ガンに苦しむ多くの犬猫を救うため、その治療法の開発に注力しております。また、現職についてからは、腫瘍以外の疾患に対して専門的な診療が行えるように新たな挑戦をスタートしました。辛いことや苦しい時もありますが、その都度多くの諸先輩方、同僚、後輩に助けられながら継続できています。決して傲ることなく、常に感謝の心を持ち、これからも獣医療の発展に貢献できるよう挑戦していきます。今後とも何卒宜しくお願い致します。

コロナウイルスによって、私たちの生活が大きく変化しております。少しでも早く平穏な日常が戻ることを切に願っております。

次回は、いつも診療でお世話になっている心臓のスペシャリスト、山口大学獣医外科学研究室内の砂原央先生にお願いします。

「CONTRAIL」

美祿支部 松本 容二

(農林総合技術センター畜産技術部)

飛行機雲のことで。5月下旬、東京都心の上空に美しい飛行機雲が描かれました。航空自衛隊のアクロバットチーム「ブルーインパルス」(以下、ブルー)が、新型コロナウイルスと戦い続ける医療従事者へ、感謝と敬意を込めて展示飛行を行ったのです。

飛行機が横一列に並ぶ編隊飛行は、来日した国賓や、オリンピックの開会式などで行われ、最大限の敬意や歓迎を表すものとして世界共通のものだそうです。

医療従事者の皆さんが、防疫服やガウンに身を包み、マスク、ゴーグル着用で感染防御に注意を払いながら、一日中立ち働くことは、想像を絶するストレスに晒されているのではと思います。

税金の無駄遣いだ、都心の真上を飛んで危険だという意見もあったようですが、当の医療従事者の皆さんが、励まされたというコメントを多数発信しておられたので、大変意義深いことだったのではと個人的に思っています。

つらい作業の後、人はやや上を見上げながら「ふう」と一息つくものですが、その視線の先に青空が広がり、飛行機雲が今まさに描かれていれば、少なくとも心は、軽くなるのではないのでしょうか。

飛行機は民間、軍用を問わず、事前に飛行計画の提出が義務付けられており、計画どおりの飛行コース、飛行時刻、高度などを順守しながら飛んでいます。当日は、チームとは別に少し離れて、まるで編隊を見守るように飛ぶ飛行機もいて、上空での監視や調整を行うことで、飛行の安全を確保していたようです。

税金を使って、アクロバット飛行を見せる意味が分からないという意見もありますが、純国産の飛行

機を作れる工業力、30年以上もの間その飛行機を安全に飛ばすことができる整備力と運用力、そしてパイロット

を含め、優秀な人材を育成し続けることができる力が、その国にあるのだと世界に示すこと。そのことが、空からこの国を侵略するのは無理だと思わせる、静かな抑止力となっているのではないかと思います。

さて、2012年に、航空自衛隊の広報室を舞台にした「空飛ぶ広報室」という小説が発表されました。著者の有川浩さんは、自衛隊や自衛隊員にまつわる小説を何作か発表している女流作家です。当時の広報室の室長から「航空自衛隊を舞台に小説を書きませんか」と持ちかけられ、様々な部隊を取材するも、広報室を舞台にすることが一番面白いと思い、本作を書いたと語られていました。

翌2013年には同じタイトルでTVドラマ化され、原作と同様、ブルーが重要なテーマの一つとして描かれていました。航空自衛隊で働く人々の姿が、生き生きと描かれている、とても気持ちのいいドラマです。

そして、紺碧の空を飛ぶブルーの姿が、安室奈美恵さんが歌う主題歌をバックに、美しい映像で描かれています。是非一度ご覧になってください。主題歌のタイトルは、「CONTRAIL」です。



航空自衛隊HPより

新入会員紹介



はじめまして。NOSAI山口東部地区家畜診療所に勤務しています水田 妙子と申します。昨年4月より当診療所に臨時職員として働かせて頂いており、今年4月に正職員となりました。

のを期に県獣医師会へ入会させて頂きました。

私は長崎県長崎市が故郷で、幼少時代は有明海へと続く豊かな海や山に囲まれた環境で育ち、獣医師になろうと自然豊かなここ山口県で大学時代を過ごしました。卒業後は拠点が大阪の牛専門動物病院にて9年程勤務し、主に乳牛をメインに全国あちこちの牧場での繁殖検診や乳牛診療を学んで参りました。その間に結婚、2度の出産を経て、仕事もどんどん楽しくなっており、そのままずっと大阪で暮らすことも考えておりました。

しかし、充実しているもののバタバタとした日々を追われる中、自分が過ごした「ゆったりと時間が流れていて楽しかった幼少期」を自分の子供達ははっきり味わえているだろうかと疑問を感じるようになってきました。また自分自身の将来像としても、年配になった自分の姿を想像したとき、都会でおばあちゃんをするよりも海や山に囲まれた場所で畑仕事にも精を出すおばあちゃんでありたいなという事も感じていて、以前から農業に興味があった夫といつかは帰れたらいいねと時々話していました。

はじめまして

玖珂支部 水田 妙子

(NOSAI山口東部地区家畜診療所)

そんな矢先、2017年に生まれた次男が出生後しばらくして重度のアレルギー症状が出始め、自分なりに調べた方法や色々な方のアドバイスを試してみたり良い先生を探してみましたが、なかなか症状が安定せずアトピーと食物アレルギーに悩まされる日々を過ごす中、夫婦で話し合った結果「いつか」ではなく「今」生活環境を変えようということになり、一大決心して大阪を離れ、一昨年に夫の出身地でもある山口県へ家族でUターンして参りました。

こちらに引っ越して3年目になりますが、今住んでいる家は築90年程の古い家で、井戸水と薪風呂、気密とは無縁の隙間だらけ！周りのきれいな空気や海、田んぼで遊ぶ機会が増えた甲斐もあってか、現在3才になった次男はお陰様で引っ越し後から徐々にアトピー症状が治まり、有り難いことに今では食物アレルギーも無く何でも食べられるようになりました。

山口県に移ってから自分自身も最初の年は前の職場のヘルプに時々出る程度で、子育てに専念し、やがてやってくるであろう男子2人の食べ盛りに備えてお米作りを始めたりと、前の職場で頂いてきた診療道具を時々横目で見ながらも牛の臨床からは遠ざかっておりました。

獣医の仕事に本当は未練があった私の心の中を見透かしてか、赤ちゃんの頃から働く私の姿を見ていた上の息子から「ママ、牛の仕事何でやらないの？好き

なんでしょ？」としょっちゅう聞かれるようになったのがきっかけで仕事復帰を考え始め、その後縁あって現在のNOSAI山口へ就職させて頂くこととなりました。獣医師になり10年が経ちましたが、ますます学ぶ

ことだらけですが、山口県の畜産が少しでも盛り上がり農家さんに貢献できるよう精進して参りたいと思います。皆さま今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会させていただきました坂本江里と申します。本年度より、山口県に入職し、岩国健康福祉センター食肉検査課に所属しております。

出身は神奈川県横浜市です。山口在住は20数年になりますが、私が初めて山口県を訪れたのは高校の修学旅行でした。萩の街をサイクリングするという自由行動があったのですが、街並みの散策もそこそこに、先生に隠れて海のそばの喫茶店に入り、友人とひたすらお喋りしていたことを覚えています。当時まだ17歳 (!!) の私は、将来山口県に住むことになるなんて、しかも山口県の職員になるなんてことは、夢にも思っていなかったはず。その後大学を卒業し、地元の動物病院に2年程勤務しましたが、山口県職員である現在の夫と結婚することになり、退職して山口県に来ることになりました。当時は山口に一人の知り合いもおらず、夫を除けば横浜から連れて来た2匹の猫だけが唯一の話し相手でした。子供が産れてからは、たくさんママ友にも恵まれ、10年程子育て生活を満喫していましたが、せっかく持っている獣医師の資格を活かしたいとの想い（と言えば格好いいのですが、子供が育つにつれ先立つものも必要になり…）もあり、再就職の道へと飛び込んだ先は、全く経験のない教員という職業でした。高校の調理科の生徒さんに「公衆衛生学」の授業をすることになったのです。全くの手探り状態でのスタートでした。人に教えるという経

玖珂支部 坂本江里

(岩国健康福祉センター)

験はない上に、とりあえず単位さえ取ればOKという学生時代を送っていた私が、国家試験の時にもこんなにはしなかったというくらいに猛勉強し、分厚いノートを作って挑んだ初めての授業…。そこには椅子を後ろに傾け、机の上に両足を投げ出して座る生徒の姿が…。(古いドラマのワンシーンみたい!) 自信のかけらもない私の姿を「さあどうする?」と言わんばかりにジーっと見つめる教室中のたくさんの目…。回れ右をして帰りたいのをぐっとこらえ、「足をおろして、ちゃんと座りなさい!」と声を振り絞って第一声を発したのを今でも覚えています。その後も様々なことがありましたが、個性溢れるたくさんの生徒達と過ごした十数年間は何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

そしてこの度3度目の転職先となったのが、山口県職員です。私が所属している食肉検査課の主たる業務は「と畜検査」です。鮮やかにメスを振るって検査をする先輩職員の姿を初めて見た時は、「私にできるだろうか?いや! 全くできる気がしないー!!」と内心焦りまくりでした。フレッシュな新人さんならまだしも、フレッシュとはだいぶかけ離れた私に、本当に親切に、丁寧に指導くださる諸先輩方に支えられ、何とか4カ月過ごしてこられました。食肉検査課の皆様には感謝の気持ちで一杯です。一日も早く戦力になれるよう頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、山口県獣医師会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

事務局からのお知らせ

獣医師におけるSFTSの発生事例について

このことについて、下記のとおり日本獣医師会から情報がありましたので会員の皆様へお伝えします。

記

地方獣医師会 事務局担当役員 事務局長 各位

公益社団法人日本獣医師会

平素より大変お世話になっております。

さて、このたび獣医師におけるSFTSの発生事例について、広島県獣医師会から添付資料(同県獣医師会小動物開業部会員あて通知)をもって情報提供いただきましたので、ご報告申し上げます。

つきましては、貴会小動物開業・勤務の会員構成獣医師等に対し、個人防護具の装着等による適切な感染防護対策の実施について改めて周知くださいますようよろしくお願い申し上げます。

小動物開業部会員様

広島獣第53号
令和2年7月6日

公益社団法人広島県獣医師会
会長 木原敏博(公印省略)

ネコから重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスに感染し
SFTSを発症したとみられる事例の発生について

平素から、本会の事業推進に格別なご協力ご理解を賜り厚く感謝申し上げます。

このことについて、広島県健康福祉局長から、別紙写しのとおり通知がありました。

ついては、感染予防対策を徹底していただくようお願いいたします。

猫の診察時には、猫が家から外出するかどうかの確認とダニ予防の確認を行ってください。症状、検査ではその場ではSFTSと判断できかねませんので、外出歴あり、ダニ予防歴なしの猫の診察時には、ゴム手袋、ゴーグル、フェイスガード等を装着し診察するようにしてください。

令和2年7月3日

公益社団法人広島県獣医師会会長様

広島県健康福祉局長

ネコから重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスに感染し、
SFTSを発症したとみられる事例の発生について（通知）

平素から、感染症対策の推進について御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

令和2年6月25日に、県内で、ネコを診察・治療した獣医師が、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に感染した事例が確認されました。

当該獣医師は30歳代男性で、治療中にSFTS陽性のネコの体液に触れており、治療11日後に、発熱、全身倦怠感等の症状を呈し、検査の結果、SFTS陽性でした。

また、厚生労働省及び国立感染症研究所が発行する「病原微生物検出情報Vol.40（No.473）2019年7月」においても、マダニに直接咬まれたことによらず、SFTSウイルスに感染した動物（ネコやイヌ）との接触によりSFTSを発症した患者が報告されています。

については、病気のネコやイヌに触れる機会の多い獣医療関係者は、SFTSウイルスの感染リスクがより高いと考えられることから、患畜の取扱いには手袋を着用するなど、標準感染予防策及び必要に応じて接触感染予防策を徹底いただくよう貴会会員への周知をお願いします。

環境保健センターからの協力依頼について

環境保健センターから愛玩動物における重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）疑いの血清採取について、下記のとおり依頼がありましたのでお知らせするとともに、SFTSを疑う事例がありましたら、協力方、お願いします。

なお、協力依頼文及び検査記録表については、会員専用バーナーに掲載しております。

動物病院の先生方へご協力のお願い（調査期間2019年4月～2020年12月）

1) SFTS疑いの血清採取について

- ・診療時に臨床所見、血液検査等でSFTSを疑った場合は、血清を500μL程度確保し、冷蔵（10℃以下）保存をお願いします。
- ・疑い患畜についてSFTSV検査記録票（動物病院用）に必要事項を記入ください。
- ・複数検体がある場合は、任意の検体番号を記入するなど、SFTSV検査記録票と検体が一致するようにお願いします。

2) SFTS感染の疑いがあるイヌ・ネコの診察上の注意点

- ・重症例に関してはPPE（手袋・マスク・ゴーグル・防護衣等）を徹底し、感染防御を行ってください。
- ・汚物、排泄物の処理は0.5%次亜塩素酸ナトリウム含有消毒薬での消毒またはオートクレーブ処理を行ってください。
- ・当該イヌ、ネコに咬まれた場合や汚染物（体液・排泄物）で粘膜等が汚染された場合は、流水等で直ちに洗浄し、医師に相談してください。

3) 感染したか不安な場合や飼い主への指導方法

- ・10日程度体温を測定し、発熱があった場合は、直ちに受診し、医師に相談。

（参考）これまでのSFTS発症イヌ・ネコの特徴的な所見など

- ・発熱（39℃以上）
- ・白血球減少（発症猫800-4200/μL）
- ・血小板減少（発症猫0-4×10⁴/μL）
- ・肝酵素上昇（発症猫ALT>50-250 U/L、AST>50-150 U/L）
- ・入院が必要な程の重症（自力採餌困難等）
- ・CPK上昇（SFTS発症猫>1000 U/L）、T-Bil上昇(>0.5 mg/dLが多い)
- ・黄疸、嘔吐や消化器症状などが認められることが多い
- ・マダニの寄生は必須ではない

5) 検体搬送について

下記の連絡先にご連絡ください。回収日時（土日祝日を除く）を相談の上こちらから伺います。

※検査結果がすぐにお知らせ出来ない場合もありますので、ご了承ください。

連絡先：山口県環境保健センター 保健科学部：ウイルスグループ 香川、川崎

TEL：083-922-7630 Fax：083-922-7632 e-mail：a13231@pref.yamaguchi.lg.jp

花田書記の受賞報告

県獣医師会事務局

花田書記が公益社団法人日本獣医師会会長から獣医師会職員永年勤続表彰を受賞しました。この表彰は、日本獣医師会の表彰規程に基づき勤続年数が満20年または満30年に該当する職員を対象に実施されるものです。花田書記は、満20年勤続という事で本会から推薦を行い、全国で唯一受賞者となりました。本来であれば、第77回日本獣医師会通常総会（令和2年6月23日予定）時に蔵内会長から賞状を受け取

ることになっていましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、通常総会が書面決議となり、賞状が本会に送付されました。

このため、田中会長から手交されましたことをお伝えし、会員の皆様と喜びを分かち合いたいと思います。

本当に20年間、お世話になりました。



田中会長からの表彰状手交



表彰状を頂きました（花田）

学術・論文紹介

公益社団法人静岡県獣医師会から静岡県獣医師会会報第44号を受領しました。本号には、学術・論文紹介のコーナーがあり、静岡県獣医師会の了解を得ましたので、タイトルのみ紹介します。

なお、内容にご興味のある方は、静岡県獣医師会（TEL：054-251-6035 FAX：054-254-4980）に照会してください。

- ・子豚損耗低減のためのセンシング項目と早期対応の効果
- ・家畜保健衛生所における新たな獣医師確保の取組
- ・牛RSウイルスにおけるリアルタイムRT-PCRの活用と分離に適する採材条件の検討
- ・皮膚深部穿刺法で治癒したアロペシアXの犬の1例
- ・長期予後が得られた被嚢性腹膜硬化症の犬の1例
- ・日和見マイコプラズマ症を発症したFIV陽性猫の1例
- ・両側大腿骨頭すべり症がみられた骨端軟骨異形成症の猫の1例
- ・鶏盲腸便由来サルモネラ属菌の薬剤耐性状況
- ・飼育下キタオットセイ（*Callorhinus ursinus*）に認められた季節に伴う血液性状の変化
- ・災害時の動物対策の現状と今後の取組

事務局からのお盆休みのお知らせ

令和2年8月13日（木）～14日（金）をお盆休みのため、事務所を閉鎖します。会員の方々には、ご不便をおかけしますが、ご理解のほど、お願いします。

令和2年度 小動物講習会開催の案内

令和2年度小動物講習会を下記により開催します。つきましては、会場の設営、講習会資料の準備の都合上、9月16日（水）までに事務局にご連絡ください。折り返し、当日参加のための健康チェック表をお送りします。

- 1 日 時：令和2年9月27日（日）13:30～16:30
- 2 場 所：「防長苑」山口市熊野町4-29（TEL：083-922-3555）
- 3 講 師：網本 昭輝 先生（宇部市 アミカペットクリニック）
- 4 内 容：「一次診療施設で行いたい口腔内疾患の予防と治療」（仮題）
- 5 その他：
 - ・今回の講習会は、会員限定とさせていただきます。
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止することもあります。

事務局だより

7月2日	・職域部会三部会会議	山口市（県獣会館）	7月30日	・動物愛護管理推進計画協議	山口市（県獣会館）
7月27日	・会報編集委員会	山口市（県獣会館）			
7月30日	・会館修理業者打合せ	山口市（県獣会館）	7月9日、30日	・事業推進会議	

次回編集委員会 8月25日（火）13:30～

山口県獣医師会会報 第711号 令和2年8月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上 田 晋 平

発行責任者 田 中 尚 秋

印刷 コロニー印刷